

平成22年度 第2回社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日時 平成22年7月9日（金）
- 2 開催場所 市役所 議会棟3階 第2委員会室
- 3 出席委員 16名  
廣瀬委員長，高橋副委員長，小林（修）委員，小林（利）委員  
櫛淵委員，大出委員，塚田委員，青木委員，郷間委員，岡村委員，柳田委員  
石澤委員，河田委員，金子委員，磐井委員，櫻井委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 2名
- 6 議 事
  - ・ 協議事項
    - (1) 宇都宮市における今後の「成人教育」について（第5回）
    - (2) 「宇都宮市文化振興基本計画」の見直しにかかる評価と今後の課題について
    - (3) 平成22年度栃木県社会教育委員協議会評議員の選出について
    - (4) 第52回全国社会教育研究大会への参加について
    - (5) 平成22年度関東甲信越静社会教育研究大会への参加について
- 7 その他
- 8 答申
- 9 閉会

## 10 発言の要旨

廣瀬委員長	議事に移りたいと思います。協議事項の1宇都宮市における今後の「成人教育」について第5回目になります。この答申案で今回最終確認ということになります。事務局から、前回意見がでたものについて、意見をふまえて修正した部分をかいつまんでご説明いただければと思います。
事務局	【資料について説明】
廣瀬委員長	ありがとうございました。前回議論いただきました“イキな宮人”という物の言い方について、それぞれ皆さん色々な思いをお持ちで、その関係で多少文言を修正してございます。また、13ページの結びにあるように成人教育というテーマで諮問・答申しているのは他の市町村では例のないことです。大人をどうするのかという話です。私たちがこの答申を考える上で、大人をあるべき姿に強要するつもりではないことをはっきり明記しているのは重要なことです。人が持つそれぞれの思想信条や考え方の多様性を否定するものではなく、一定の教育を受け社会生活を営んでいる大人への教育をあくまでも大人の主体性を尊重し、大人が自ら考え行動を取ることが基本であるということを押さえております。事務局の修正で、そういった危険性はここできちんと指摘されています。この答申案について少し議論をしていきたいと思いますが、いかがなものでしょうか。 前回ご意見を述べられた方々、自分の意見に沿って、あるいは自分の考えた方向で修正されているでしょうか。
金子委員	前回は出席できませんでした。今、廣瀬委員長が成人の答申というのはあまり例がないとおっしゃっていましたが、このように強要するものではなくと文言が入ったということはとても適切なことである。と同時に例えば学生たちを見ていても以前、自分が学生だった頃には考えられない、自分の常識・マナーというのが通じないような、色々なことも起きているようで、それを見たときにやはりそれをどこからアプローチしていくのか、いろいろな方法があると思いますが、その成人の方々からアプローチしていくということも大切な一つの方法だと思います。
廣瀬委員長	ありがとうございます。
小林（利）委員	先ほどお話を聞いていて思ったのですが、成人教育というのはこういうものだというのは「結び」ではなく、むしろもう少し前に出しても良いのではないかと。例えば今後の成人教育の役割というのは、実際にはそうなっていないかもしれませんが、例えば社会の状況であるとか、大人達の実態であるとかそういうものを踏まえた時に、今成人教育に求められるものというのは一体何なのか。ということがすごく大きな問題だと思います。

その時に成人教育の考え方としては大人の主体的な学習に基づくものだと。これを踏まえた上で今後の成人教育の役割は一体何なのかということが出ることがすごく大切なことなのかなと。

廣瀬委員長

この答申はあまり一般市民の目に触れることは多くないと思います。でも、おそらく生涯学習課ではこういう答申が出ましたのでこれに基づいてリーフレットなどを作っていきようになる。リーフレットは色々なところで大人の学習はこうだよとこれに基づいてPRしていかなければならない。小林委員がおっしゃったような社会の状況によって成人教育に求められるものは何なのかと前面に打ち出していくようなことを、「結びに」に多少書いてありますがそれを前面に出していくような普及啓発活動をして行っていたら私はいいのではないかなと思います。先生のご指摘の通りだと私も思います。

その他にご意見ございますか。最後の意見の発表の場になると思うので、どうぞ遠慮なく意見をおっしゃっていただければと思います。

塚田議員いかがですか。

塚田委員

“イキな”にこだわってみました。注釈として定義付けされているので、完全に納得した訳ではないのですが、良いのではないのでしょうか。

廣瀬委員長

そうですね、“イキな宮人”と言ってしまうとそれは色々なところで一人歩きしてしまうものですから、定義をきちんとしていこうということです。社会的な責任を果たしていく人になれと言う話ですが、それを直接的な言葉ではなく、「責任のあるしぐさや振る舞いのできるイキな宮人に」というような文脈で整理されている。

岡村委員お願いします。

岡村委員

私はこの答申の最終版を見せていただきまして、今までいろいろ議論されてきたところが相当直っていて、修正されている。事務局のご苦勞に大変感謝したいと思います。

廣瀬委員長

事務局も苦勞したようです。言葉もかなり丁寧に調べ、日本語として間違いのないように随分苦勞したようです。

石澤委員いかがですか。

石澤委員

前回の会議の後、送っていただいた資料をみなさんがおっしゃっていた意見を反芻しながらじっくり読ませていただいて、「こんな風に思います」ということを事務局にお伝えすることができたので。そういった進め方をさせていただいて感謝しております。

廣瀬委員長	<p>そうですか。ありがとうございます。 青木委員いかがですか。</p>
青木委員	<p>自分たちは子育てしながら「今の子ども達は・・・」ということはよく言われておりました。一般論として「今の子ども達は昔と比べて・・・」と言われていた機会がすごくあったと思います。こういった形で成人教育という大人に向かったの機会が重要になっているということを今回すごく感じましたので、自分たちもPTAで義務教育の間とか子どもが学生の間だけが教育ということで携わっているという意識が強いのですが、そこから先ということでこう機会があるのは社会生活を送っていく上でとても重要なことだと認識をさせていただきました。</p>
廣瀬委員長	<p>ありがとうございました。</p>
小林（修）委員	<p>私は今回直ったものについて特別な意見を持っておりません。感じたことを一つだけ付け加えますと、やはり成人教育という言葉自体が生涯学習、生涯教育と同じで、主体者をどこに置くかという関係があります。答申の元々が成人教育について諮問していますので、やはり行政としてどうしたらいいかとニュアンスをここに感じる訳です。今度はそれに基づいて実際に運用していく時に、主体性を持った大人として、我々自身もさらに育っていくといった観点を踏まえていただきたい。</p>
廣瀬委員長	<p>ありがとうございます。大出委員いかがですか。</p>
大出委員	<p>随分考えて文章を直されたと思います。何回も読んで感動いたしました。</p>
廣瀬委員長	<p>磐井委員いかがですか。</p>
磐井委員	<p>大変よく分かりやすくまとめられ、継続的にこれから取り組んでいくということが大切だと思いました。一応、自己中心的な振る舞い、モラルの意識が低下しているということが一番の問題でしたので、やはり一人でも多くの大人に気づいてもらうということでここにもまとめてありますが、長期的な視点で継続的に取り組んでいくことがこれからの課題になると思います。</p>
廣瀬委員長	<p>ありがとうございます。櫛淵委員いかがですか。</p>
櫛淵委員	<p>大人の人の意識ということをどのような啓蒙で伝えていくのかなと今、心配します。</p>

廣瀬委員長 具体的な方法で考えていかなければならないですね。おっしゃる通りですね。  
柳田委員いかがですか。

柳田委員 これまでの会議に参加させていただいて成人教育というものが大切だと感じてきました。小学校に関わる者として様々な子ども達や保護者の方がいらっしやいます。常々、そういうことは話にでてきますが、やはり子どもにとっても理想となる目標となる大人がもっと身近に増えると、とても成長しやすく、生きる力にも繋がるのではないかと思います。自分自身が立派な大人ではないですけど、これを通してたくさんのそのような大人が育っていただければと思います。

廣瀬委員長 そうですね、私も同感ですね。大人が社会的責任を果たしていくというのは2つあると思います。1つはまちづくりに関して大人の責任を果たしていく、もう1つは子どもの教育に対して責任を果たしていく。そういうことの中で成人教育の意味が明確になっていくのだらうと思います。  
郷間委員いかがですか。

郷間委員 2回ほど欠席させていただいて、久しぶりにお邪魔させていただきました。我々もまちづくりの会議をやっていますが、集まる人間が少ないので、方策2のところを読ませていただいて、なるほどこういう風にすれば人が集まると思いました。あと1つ、我々は、人を集めるために午後8時から会議をやるとか、土曜日の7時からやるとかなるべく人が参加できるような時間帯を選んでやっています。方策2のところを書いてあるように、人がたくさん集まる、仲間が増えればそれだけ充実してくるのかなと思います。大変結構だと思います。

廣瀬委員長 それでは、本日から委員に就任されました、河田委員と櫻井委員と高橋副委員長からご意見をいただきたいと思います。  
河田委員ご意見いかがですか。

河田委員 初めて会議に参加させていただいて、まず皆さんの流れについていくので精一杯だなと感じています。私も教育に携わっていて社会教育の問題は常日頃考えております。また大人たちの教育が必要であるということ、子ども達がどのような影響を受けているのかなと思うと問題だらけなのが実態です。こうした問題について必死に考えている会があったということ、まずそういうところに参加しているということで自分がこれから非常にいい仕事に携われるとうれしく思っています。  
例えば今仕事で高校に行くと、親が離婚している子ども達が問題を抱えて

いることが多く、心理的な問題や様々な問題を抱えている。先ほど廣瀬委員長がおっしゃっていたように子育てを考えないと、地域の役割よりもまず家族が壊れ、大人たちが構成している社会自体が完全に壊れてしまう。社会的な大人の役割、親としての役割というものを考えた時に、まず子育てについて考えられるような大人をしっかり作らないと社会全体が壊れてしまうということをひしひしと感じている。

それと、「成人教育」ということでこれから色々なテーマで“イキな”という形で、その人達を作ろうという答申はできましたが、先ほど委員の中からも出ましたが、実際にそれを具現化していくにはどうしたら良いだろうと。ここが一番問題になってくると思いますので、その予算を確保し、早くいいものを社会にアピールして、少しでも多くの市民の方にどんどん伝わっていけばいいなと考えました。よろしく願いいたします。

廣瀬委員長

ありがとうございます。非常に貴重な意見をいただきました。家族が壊れているとはまさにその通りです。その責任は大人にあると思いますから、まさにこの「成人教育」の目的に繋がっていくのだらうと思います。櫻井委員お願いします。

櫻井委員

私も初めて委員会に参加ということで、委員の皆様は熱心に議論され立派な答申案ができたことについて、感謝を申し上げたいと思います。そして、「成人教育」というものは、これで完成ということではないのだと思います。社会環境は、日々変わっており、成長し続けていながら一人の人間として我々もまず自分自身から一人ひとりが見本になれるようにならなくてはいけないのかなと感じているところです。今、みなさんの意見にありました通り、これをいかにこれから市民に理解させて、進めていくかが課題だと思います。これから答申案が有効に活用されることを期待しております。お疲れさまでした。

廣瀬委員長

高橋副委員長お願いします。

高橋副委員長

ここまでさまざまな議論をされて大変すばらしい内容ができましたことを心より感謝申し上げます。地域の中で色々な問題、相談を受けましてやはり委員長が話していた通り家庭の崩壊、その歪みや被害がいたるところに現れています。成人教育については、これからは社会に役立つ人間、社会に貢献できる人間をいかに育てるか、地域に役立つ人間の必要性を強く感じます。大人は子どもに後ろ姿を見られているということを自覚して人間的に成長するのも必要かなと思います。

また改めて、今回ここまで議論されたことに敬意を表したいと思います。

廣瀬委員長

ありがとうございました。それではみなさんから意見が出されましたので

宇都宮市の今後の成人教育のあり方につきまして宇都宮市教育委員会への  
答申としたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

**【異議なしの声】**

廣瀬委員長

ありがとうございました。それでは本日の最後に私から答申書を教育長に  
渡したいと思います。よろしくをお願いします。

それでは協議事項の2に入りたいと思います。「宇都宮市文化振興基本計  
画」の見直しにかかる評価と今後の課題についてということで事務局から  
説明をしていただきたいと思います。

事務局

**【資料について説明】**

廣瀬委員長

ありがとうございました。本日の協議事項の要点をお願いします。

事務局

今後の課題を抽出するために行いました現計画の評価につきまして、課題  
認識等の誤りがないか、また、今後の課題の抽出にあたりまして、このよ  
うな視点でよろしいかどうかというところを審議いただきたいと思いま  
す。

廣瀬委員長

はい、分かりました。先ほどのA3の資料で、現計画についてこの評価で  
良いのかということと、評価から抽出した重点的に取り組むべき4つの課  
題はこれで良いのかということです。この4つの他に何かないのかなど、  
そういう観点でご意見を述べていただきたいと思います。  
ちょっと見ていただいてご意見のある方いらっしゃいますか。  
大出委員いかがでしょうか。

大出委員

納得してしまったので。

廣瀬委員長

ここまで書かれてしまうと意見があるなら言ってみろと。  
要するに良くできている。ほかにいかがですか。  
宇都宮市の文化活動で気になっているところがあれば。自由に意見討論し  
たいのですが。

廣瀬委員長

私の方から1つあります。たぶん2番の優れた文化芸術の鑑賞機会の充実  
で整理されていると思いますが、文化活動を振興しようとする時に芸術家  
の育成支援や芸術を担う人材という風にアーティストの養成を中心に考え  
ようとする傾向がやや強いですが、現実には聴衆を育成しないと文化振興  
にならない。一人の芸術家が食べていくには何千人、何万人の受け手・聞  
き手あるいは購入する人が育たないと享受する人が育たないと文化は振興

されない。聴衆を育てる、だから次世代に繋げる子どもの事業に取り組む、子どものうちから本物の芸術を見せておく。そうすると本物は凄いもんなんだと子どもの時に思うようになる。

宇都宮美術館にあれほどの作品がありますから、子どもの時から宇都宮美術館の作品を見ると本物を見る目が育ってくる。そうすることで、将来、絵の1枚でもほしいなと思うようになる。そういった文化生活を送れるようになってくるのは大事なことで。聴衆の育成についても計画のどこかで触れていただければよろしいかなと思います。

ほかにありますか。

大出委員

宇都宮市立美術館ができる時に実は委員をやっていましたが、その時に芸術家が創作する姿を見ることができるコーナーを設けるという話になっていました。予算の関係でなくなってしまいました。非常に惜しかったなと思っています。

廣瀬委員長

何らかの形で美術館の普及事業として実現されていけばいいなと思います。施設よりもむしろ事業としての方が可能性があると思います。

ほかにご意見はありますか。

金子委員

少し外れるかもしれませんが、私は大阪の出身で毎年、大阪の友達に会います。しかし友だちは宇都宮というと餃子しか知らない。餃子は知っているけど、ジャズの街やカクテルの街と言うと知らないと言われる。市の中で周知すると同時に何らかの形でジャズの街についてアピールできれば非常に宇都宮が文化的にも認知されるのではないかと、そういうことに繋がるのではないかとその度に感じています。

廣瀬委員長

宇都宮は実は文化財が非常に豊かであるということ、また個人的な思いですが宇都宮美術館は全国どこに出しても恥ずかしくない社会教育施設です。あれは市民自慢の施設だと思います。そういうものも宇都宮は文化の街なのだと。餃子だけじゃないと。そういう文化性の高いところなのだというイメージができれば情報発信の強化が柱にあるのは重要だと思います。

金子委員

全国的に認知されると市民も誇りに思える。そうするとまた変わってくるかなと思います。

大出委員

自分の話で申し訳ないのですが、那須少年記という映画が一昨年できて、恥ずかしい話ですが、中に出てくる教師のモデルが私だったんです。あの映画を全国に発信すると下野新聞の紙面の広告に出まして、喜んで全国にいる友人に「行ったら見てくださいね。」と手紙を出しましたが、とうとう

行かなかった。採算が取れない映画は全国に発信できないんだなと思いました。

廣瀬委員長

そうですね。文化情報の発信を強化する必要があるというのは役所がやるというよりも市民が発信するということですね。今、大出委員が話したように自身が発信する、市民が発信していくということを我々一人ひとりが宇都宮ってこういうところだよと文化性が高いところだよということを発信する必要があります。役所が発信するものではない。その意味でも我々の責務を感じるところです。

小林（利）委員

市立美術館の話が出ましたが、私もその評議員を何回かやらせていただいています。学校教育の立場から言いますと、これから大人になる子ども達在实际に足を運んで見る機会も重要ですし、豊かな心の育成なんて、まさに見たから豊かになると、そんな単純なものではないですが、やはり活動としては意味のあることだと思っています。先ほど話しがあったように美術館に行って物に触れること自体が文化性の向上に繋がっていく。最近は、図画工作とかそういうものが改めて見直されてきているものの、教育課程も余裕がなく、ネックになるのが美術館に行く足がない。例えば、美術館は美術館で入館者数を気にして施設を作った効果が厳しく評価される部分があります。しかし平日はガラガラ。美術館へ行くバスの予算化を3年生で求めています、その上にどうするかというのは改めて検討が必要。何年でも良いですが、鑑賞の指導もレベルアップして一度美術館に行かせられれば、美術館と学校のどちらにもメリットのある活動です。前から言っていますが、なかなか実現しません。

廣瀬委員長

宇都宮美術館は飛び出す美術館とか、学校との連携、教師のための手引書とか、かなり質の高い物をだしている。学芸員がかなり優秀です。学校にも出前をしていますし。土日に家庭で親に美術館へ連れていってもらうことを促していくようなことも必要。委員がおっしゃるように5年生になったら1回は美術館に行く。そういうものも宇都宮市民として備えておかなければならない素養な気がします。あそこで『大家族』を見るとか『シャガール』を見るとか。やはり宇都宮市民の固有の財産としてうちの街にシャガールがあるといったことが、子ども達の誇りに繋がっていく重要な教育資源だと思います。ほかにありますか。

それでは次回も予定されておりますので、もう少し文化については皆さんと意見交換する時間がありますので、この件についてはこれぐらいでよろしいでしょうか。

それでは議題の3に入ります。

平成22年度栃木県社会教育委員協議会評議委員の選出について

事務局

【資料について説明】

廣瀬委員長

現在は私が理事をしています。引き続き私がやりますがよろしいでしょうか。

【異議なしの声】

廣瀬委員長

では、私がやらせていただきます。  
次の議題にまいります。第52回全国社会教育研究大会への参加について

事務局

【資料について説明】

廣瀬委員長

関東大会は東京に私，廣瀬が行かせていただくことになりました。  
全国大会は福島に高橋副委員長と石澤委員の2名に行っていただきます。  
宇都宮市のPRをしっかりとってきていただきたいと思います。よろしく  
お願いします。それでは行かれる方々よろしくお願いたします。  
続いて、その他ですが、事務局から連絡事項はありますか。

事務局

【資料について説明】

廣瀬委員長

ありがとうございました。それではその他の説明が終わりまして、他に  
ないようございますので引き続き本日まとまりました「宇都宮市における  
今後の「成人教育」のあり方について」答申書の授与式に移りたいと思  
います。ここからの進行は事務局にお願いします。

【答申の授与式】

事務局

それでは、社会教育委員の会議からの答申を始めさせていただきます。  
廣瀬委員長から伊藤教育長へ答申書をお渡しいただきます。

【廣瀬委員長から伊藤教育長へ答申】

【伊藤教育長からお礼の挨拶】

事務局

それでは、これをもちまして、社会教育委員の会議からの答申及び平成22  
年度第2回社会教育委員の会議を終了したいと思います。  
お忙しい中、長きに渡り、熱心にご協議をいただき、誠にありがとうございました。